

## 4 産業革命

テキスト ロバート・ハイルブローナー、ウィリアム・ミルバーク『経済社会の興亡』ピアソン（2000年）第4章 / 馬場哲・小野塚知二編『西洋経済史学』東京大学出版会（2001年）第4章

### 4.1 イギリス産業革命の前提条件

産業革命: 工業化社会への移行 / 自由競争原理による農業と工業の資本主義化 / 資本=賃労働関係  
重商主義政策 国内の商工業・農業の発展 / 海外市場の獲得と保持

→ 「イギリス商業革命」(海外貿易の急速な拡大)

国内市場の拡大 農業生産の増大と大衆消費市場・農村工業・国民経済の形成

技術と経営組織の革新 機械や蒸気機関の発明・応用 / 分業にもとづく協業によって生産する工場

新しい社会層 中産階級出身の企業家とその価値観・行動様式 (ピューリタンの禁欲的職業倫理)

市民革命 資本主義の発展に抑圧的な絶対王制の政策と機構を破壊

### 4.2 工場制生産の成立

毛織物工業のマニファクチュア (工場制手工業) に機械体系を導入 (18世紀前半)

綿工業: 綿製品輸出額 (1750年の約2万ポンドから1830年の1,940万ポンドへ)

1767年 「ジェニー紡績機」を発明 (ハーグリーブス)

1769年 水力紡績機を発明 (アークライト)

1779年 「ミュール紡績機」を発明 (クロンプトン)

1785年 ワットの回転式蒸気機関をミュールの動力機として採用

1825年 自動ミュール紡績機を発明 (ロバーツ) → 生産規模が10倍に拡大

その他の技術革新: 製鉄業・蒸気機関と高圧エンジン・工作機械

イギリス産業革命の諸結果:

生産の急速な拡大 (輸出の増大と価格の低下) / 過剰生産恐慌 / 労働者階級とその階級意識

### 4.3 産業革命をめぐる諸問題

イギリス産業革命は存在したか? 激変説・資本主義への移行の画期・工業化社会への「離陸」

「プロト工業化」と「工業化の挫折」農村工業の比較・農村工業と工業化との連続性

産業革命の類型 最初の産業革命イギリスと後発国の工業化・産業革命

スミス経済学からの理論的考察 資本と生産性 / 資本と専門化 / 資本と貯蓄 / 貯蓄と投資 / 初期資本主義の成長 / 成長への動機付け / 資本をつくり出すメカニズムとしての市場